



福井大学教育学部附属
義務教育学校

No. 01

平成31年4月17日

学校だより

新年度のスタートに当たって（始業式校長講話より）

校長 大山 利夫

新しい先生方をお迎えし、いよいよ、平成31年度、附属義務教育学校が始動しました。

昨年度の修了式で私が児童・生徒の皆さんにお願いしたこと、それは春休みの間に各自が今年度の目標をしっかりと考えておくことでした。ただし、目標を決めるだけではなく、どのような手立て、段取りで目標に近づくかを考え、見通しを立ててやり抜くことが大切です。特に、9年生の皆さんは最高学年、義務教育課程最後の年となります。進路のことも慎重に考えなくてはなりません。1年後、あるいはその先の自分のあるべき姿を思い描き、自分の成長を実感できる、そんな一年にして欲しいと思います。これは9年生以外の皆さんについても同じです。下級生が頑張っている上級生の姿をみて、自分もあなりたいと思うような、そんな上級生になって欲しいと思います。

今日の午後は、前期課程と後期課程の入学式もあります。前期課程の新入生や後期課程の編入生は、新しい環境の中で生活することになり、しばらくはストレスを感じることもあるかと思います。上級生となる皆さんは、そんな新しい仲間を温かく迎え入れ、支えてあげて欲しいと思います。

それから、後期課程の皆さんにお伝えてしておきたいことがあります。それはクラブ活動の件です。今年度からクラブ活動の運営を一部見直すことになりました。一つは、部員数が少なくなっている水泳部の部員募集を行わないことです。ただし、個人で本校代表として大会に出場する場合には先生が引率にあたります。スキーについても同じです。もう一つは、放送部を科学部と合体させ、これまでの放送部は科学部の「メディア部門」として活動してもらうということです。なお、他のクラブについては変更ありません。以上の措置は多忙化する先生方の働き方改革の一環として行われるものですが、同時に顧問・副顧問の組み合わせも考えて、円滑にクラブ活動が運営できるように配慮してあります。生徒の皆さんも効率的な練習や活動を心がけてください。そして、今年度も皆さんの活躍を期待しています。

さて、今日はもう一つお話ししたいことがあります。修了式で紹介した暦の二十四節気では、今の時期を「清明」といいます。福井市には清明小学校という学校もあります。清明とは全てのものが生き生きとする頃のこと、命が輝く季節のことです。毎年この時期になると、出会えることを楽しみにしている生き物がいます。それはギフチョウです。ギフチョウはこの時期にだけ成虫が現れ、山の中を飛び回ります。とてもきれいな蝶なので、春の女神とも呼ばれています。名前はお隣の岐阜県に由来しますが、岐阜にだけいるというわけではありません。本州の秋田県南部から山口県の里山に生息し、日本にしかない蝶です。このような生物種を日本固有種と言います。



春に羽化して成虫になったギフチョウは、カンアオイという植物の葉に卵を産み付けます。卵から孵った幼虫はカンアオイの葉を食べて成長し、夏までに落ち葉の中でサナギになります。ギフチョウはこのサナギのまま約10ヶ月を過ごし、冬を越して翌春に羽化して蝶になります。春先にしかみられない珍しい蝶なのです。ギフチョウは全国的に数が減少し、環境省のレッドデータブックでは絶滅危惧Ⅱ類の指定を受けていますが、嬉しいことに、福井ではまだ多くの個体が生息しています。福井市の天然記念物にも指定されており、これも福井の自慢できる点だと思います。この近くでは足羽山や八幡山でも見ることができますし、大安禅寺から山の方にのびる林道でも見ることができます。晴れた日の林道を飛び交う春の女神、ギフチョウをぜひ皆さんにも一度見て欲しいと思います。そして、福井の自然を大切にす豊かな心をもった人になって欲しいと願っています。